

看護研究バックナンバー(内容紹介)

JUL
AUG
Vol
46
No
05

特集 | 看護研究におけるテキストマイニング(I)

- 看護の言葉をマイニングする—テキストマイニング研究概論 服部兼敏
- テキストマイニングの看護研究における活用 いたうたけひこ
- 統合失調症当事者の語りのテキストマイニング—闘病記のタイトル分析を中心に 小平朋江, いたうたけひこ
- 「乳がん研究の動向」と「患者の語り」のテキストマイニング活用例 城丸瑞恵, 水谷郷美, いたうたけひこ, 門林道子, 佐藤幹代, 小平朋江, 本間真理

●研究報告

児童・思春期精神科病棟における熟練看護師の看護ケア—子どもが抱える問題の解決に向けた看護介入
船越明子, 田中敦子, 服部希恵, アリマ美乃里, 田中洋美

●連載

看護における質的研究の前提と正当性・4 実践の知について—看護研究における基本的な枠組み 家高洋
Words, words, words. 研究と言語—質的研究のために⑩ ことばと理解 江藤裕之

Suppl.
Vol
46
No
04
(増刊号)

特集 | 質的研究方法を用いた博士論文作成指導の技法 メンタリングプロセスに焦点を当てて

- 本研究のこれまでと概要 萱間真美
- 質的研究を行なう博士課程の学生指導—Mentoring Doctoral Students in Qualitative Research Christine A. Tanner 監訳: 萱間真美
- 博士論文作成指導におけるメンタリングプロセス—『Journal of Nursing Education』への投稿を通じて 萱間真美, グレグ美鈴, 麻原きよみ, 山本則子, 大熊恵子, 太田喜久子, 木下康仁
- 博士論文の指導と審査, および分析基礎力の指導例 木下康仁
- 質的研究の経験から—論文指導, 学習のヒント 山本則子

【ディスカッション】
■質的研究方法を用いた博士論文作成指導において何が重要か 中山洋子, Christine A. Tanner, 山本則子, 木下康仁, 萱間真美, 大熊恵子, グレグ美鈴, 麻原きよみ
〈ディスカッションへのコメント〉 麻原きよみ

■博士論文作成指導に関する今後のあり方—私はこう考える ①グレグ美鈴 ②中山洋子

●特別記事

『APAに学ぶ 看護系論文執筆のルール』から考える, 研究論文を書くためのヒント—第32回日本看護科学学会学術集会／(株)医学書院共催ランチョンセミナーより 江藤裕之, 前田樹海

●原著論文

質的研究方法による学位論文作成に際して看護系大学院生と指導教員が遭遇する困難—医学系研究科博士課程における聞きとりより 大熊恵子, 関本朋子, グレグ美鈴, 大川貴子, 竹崎久美子, 麻原きよみ, 山本則子, 太田喜久子, 木下康仁, 萱間真美

●総説

人工呼吸器関連肺炎のリスクと予防—看護研究への示唆 矢野武志

MAY
JUN
Vol
46
No
03

特集 | 認知症の当事者研究のために 老年看護学の視座を拓く

- なぜ, 認知症の当事者研究なのか—認知症ケアの歩みと未来 中島紀恵子
- 認知症の当事者研究とは何か—超高齢社会の生き方・看護・研究の共創に向けて 永田久美子
- 医師の立場からみた認知症の当事者研究 木之下徹, 水谷佳子, 安田朝子, 本多智子
- ドキュメント認知症当事者研究の誕生—芋虫が蝶に変わるように 川村雄次
- 認知症の本人と共に生きるケアの実践—センター方式の取り組みを中心に 櫻井記子
- 当事者と共につくる個別ケアと地域包括ケアのダイナミックな連動—行政事務職の立場から考える 稲垣康次

【座談会】

■認知症の当事者研究から見えてくるもの
中島紀恵子, 永田久美子, 木之下徹, 稲垣康次, 川村雄次, 櫻井記子

【講演】

■認知症と生きる クリスティーン・プライデン 翻訳: 馬籠久美子

●連載

看護における質的研究の前提と正当性・3 ガダマーについて—看護研究におけるその意義 家高洋
Words, words, words. 研究と言語—質的研究のために⑨ 区別と名づけ 江藤裕之

